


接着系アンカー(無機系・回転型・ガラス管式)

認証取得者	日本デコラックス株式会社	
所在地	〒480-0103 愛知県丹羽郡扶桑町柏森字屋敷 10	
連絡先	Tel:0587-93-2411 Fax:0587-91-1070	
商品名	ケミカルアンカー・CX(-N)タイプ	
接着剤の材質	特殊セメント	
認証種類	タイプ B	
認証番号	第 19-0012 号	
認証有効期間	2020年3月11日～2025年3月10日	

別添資料

品番	カプセル径 [mm]	カプセル長 [mm]	カプセルの容量 [g] (内容量及び許容差)	アンカー筋	ドリル径 [mm]		穿孔深さ [mm]	
					径	許容差	穿孔深さ	許容差
CX-10EN	10.5±0.5	80±3.0	12.4 (7.0~7.7)	M10	12.0	-0 ~+0.4*	90	-0~+3.0
				D10	13.0		80	
CX-12EN	13.0±0.5	100±3.0	23.6 (14.5~15.9)	M12	14.5		100	
				D13	16.0		105	
CX-16EN	16.5±0.5	110±5.0	43.5 (28.0~30.8)	M16	19.0		130	
				D16	20.0		180	
CX-16TN	16.5±0.5	135±5.0	52.8 (33.3~36.6)	D16	20.0		180	
CX-16THN	16.5±0.5	155±5.0	60.8 (38.6~42.4)	D16	20.0		210	
CX-19EN	20.5±0.5	130±5.0	78.1 (51.7~56.8)	D19	24.0		160	
CX-19TN	20.5±0.5	155±5.0	92.1 (60.8~66.8)	M20	23.0		200	
				D19	24.0	210		
CX-19THN	20.5±0.5	180±5.0	108 (71.5~78.6)	D19	24.0	250		
CX-22MN	20.5±0.5	220±5.0	135 (91.4~100.5)	M22	26.0	-0~+5.0		
CX-22EN	24.5±0.5	140±5.0	121 (88.1~96.9)	D22	28.0		180	
CX-22TN	24.5±0.5	175±5.0	151 (110.4~121.4)	D22	28.0		245	
CX-22THN	24.5±0.5	200±5.0	173 (125.8~138.3)	D22	28.0		290	
CX-25MN	24.5±0.5	265±5.0	228 (160.0~176.0)	M24	30.0		300	
CX-25TN	28.5±0.5	180±5.0	208 (151.4~166.5)	D25	32.0		280	
CX-25THN	28.5±0.5	210±5.0	246 (180.0~198.0)	D25	32.0		330	

\*: 市販のドリルビットの公差とする。

【アンカー筋の強度、ねじの等級】

1. アンカー筋の引張強さ、規格降伏点、伸び率

種類	種類の記号	規格番号	規格降伏点 N/mm <sup>2</sup>		引張強さ N/mm <sup>2</sup>	伸び率 %		
			鋼材の厚さ (メトル並目ねじ) (mm)			メトル並目ねじ: 鋼材の径 (mm) 異型棒鋼: 棒鋼の呼び名		
メトル並目ねじ	SS400	JIS G3101	16 以下	16 を超えて 40 以下	400~510	25 以下		
			245 以上	235 以上		20 以上		
異型棒鋼	SD295A	JIS G3112	295 以上		440~600	D10	D13~D22	D25
	SD345		345~440		490 以上	16 以上	/	/

2. アンカー筋のねじの等級

(8g もしくは 3 級) またはそれ以上の等級とする。

接着系アンカー(無機系・回転型・ガラス管式)

認証内容

構 成 部 品	項目 1	カプセル容器	材 質	ガラス					
			形 状	別添資料による。					
			寸法及び許容差	別添資料による。					
			製品重量及び許容差	別添資料による。					
	項目 2	接 着 剤	材 質	主材	特殊セメント	硬化材	活性化液	骨材	珪砂
			強 度	$\tau_{fu} \geq 10 \sqrt{\sigma_B / 21}$ (N/mm <sup>2</sup> ) に対して、95%以上の信頼性を有している。 [記号] $\tau_{fu}$ : 付着強度計算値 (N/mm <sup>2</sup> )、 $\sigma_B$ : 母材コンクリートの圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )					
項目 3		物 性	圧縮強さ	29.4N/mm <sup>2</sup> 以上	曲げ強さ	4.9 N/mm <sup>2</sup> 以上			
項目 4	ア ン カ ー 筋 関 連	種 類	メートル並目ねじ (JIS B0205) 種類と呼び名 (径) は別添資料による。 異形棒鋼 (JIS G3112) の種類と呼び名 (径) は別添資料による。						
		先端形状	メートル並目ねじ: 片面 45 度斜めカットしたものであること。 異形棒鋼: 片面 45 度斜めカットしたものであること。						
		外 観	1) 油、きりかすなど異物が表面に付着していないなど、アンカー筋表面に定着を阻害するものがないこと。 2) ナットを嵌合する部分のねじが損傷していないこと。						
項目 5		材 質	メートル並目ねじ: SS400 改良材 (JISG3101): M10, M12, M16, M20, M22, M24 異形棒鋼 : SD295A (JISG3112): D10 SD345 (JISG3112): D13, D16, D19, D22, D25						
		表面処理	アンカー筋に防食が必要な場合は、表面処理を施す。 表面処理は、原則としてクロームめっき、亜鉛めっきとする。						
項目 6		強 度	降伏点・引張り強さ・伸び率		別添資料による。				
		ねじ等級	8g もしくは 3 級またはそれ以上の等級とする。						
製 品	項目 7	ドリルの種類	ハンマードリルとする。						
		ドリル径および許容差	ドリル呼び径: -0~+0.4mm とする。						
	項目 8	穿孔深さと許容差	穿孔径が 20mm 以下: -0~+3mm, 20mm を超えるもの: -0~+5mm とする。						
	項目 9	母材の種類	普通コンクリートとする。						
	項目 10	設計基準強度の範囲	18 N/mm <sup>2</sup> 以上、36 N/mm <sup>2</sup> 以下。						
	項目 11	環境条件 (固着後)	外気温 -5°C 以上、80°C 以下とする。						
	項目 12	引張耐力算定式	破壊形式に応じて適用する式 (1) から式 (3) に対して 95%以上の信頼性を有している。 $T_{oc} = 0.23 \sqrt{\sigma_B} \cdot A_c \cdots$ 式 (1)、 $T_{cb} = \tau_a \cdot \pi \cdot d_a \cdot \ell_e \cdots$ 式 (2)、 $T_{tu} = \sigma_u \cdot a_0 \cdots$ 式 (3) [記号] $T_{oc}$ : コーン破壊したアンカーの引張耐力計算値 (N) $\sigma_B$ : 母材コンクリートの圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> ) $A_c$ : コーン状破壊面の有効水平投影面積 (mm <sup>2</sup> ) ( $= \pi \cdot \ell_e \cdot (\ell_e + d_a)$ ) $T_{cb}$ : 付着破壊したアンカーの引張耐力計算値 (N) $\tau_a$ : 付着強度 (N/mm <sup>2</sup> ) で、次式による。 ( $= 10 \sqrt{\sigma_B / 21}$ ) $\ell_e$ : アンカー筋の有効埋込み長さ (mm) ( $= L - d_a$ ) $L$ : アンカー筋の埋込み長さ (mm)、 $d_a$ : アンカー筋の外径 (mm) $T_{tu}$ : アンカー筋が破断したアンカーの引張耐力計算値 (N) $\sigma_u$ : アンカー筋の素材の材料強度 (N/mm <sup>2</sup> ) ( $= 1.1 \sigma_y$ ) $\sigma_y$ : アンカー筋の規格降伏点 (N/mm <sup>2</sup> ) $a_0$ : アンカー筋の最小断面積 (mm <sup>2</sup> )						
	項目 13	引張剛性	あと施工アンカーの引張剛性が、下記の条件を 95%以上の信頼性を持って満足している。 $\min. \{ 2/3 \cdot T_{my}, 0.4 T_{oc}, 0.4 T_{cb} \}$ 時における軸方向の変位量 $\delta$ が、0.3 mm 以下 $\min. \{ T_{my}, 0.6 T_{oc}, 0.6 T_{cb} \}$ 時における軸方向の変位量 $\delta$ が、1.0 mm 以下 [記号] $T_{my}$ : アンカー筋の降伏引張耐力 ( $= \sigma_y \cdot a_0$ )						
	項目 14	せん断耐力算定式	次式に対して、95%以上の信頼性を有している。 $Q_{nc} \geq 0.4 \sqrt{E_c \cdot \sigma_B} \cdot s_a a_0$ ただし、 $500 \leq \sqrt{E_c \cdot \sigma_B} \leq 900$ (N/mm <sup>2</sup> ) $Q_{tu} \geq (\sigma_u / \sqrt{3}) \cdot s_a a_0$ [記号] $Q_{nc}$ : 母材コンクリートの支圧破壊により定まるあと施工アンカーのせん断耐力計算値 (N) $E_c$ : 母材コンクリートのヤング係数 (N/mm <sup>2</sup> ) $\sigma_B$ : 母材コンクリートの圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> ) $s_a a_0$ : アンカー筋の最小断面積 (mm <sup>2</sup> ) $Q_{tu}$ : アンカー筋のせん断破壊により定まるせん断耐力計算値 (N) $\sigma_u$ : アンカー筋の素材の規格引張り強さ (N/mm <sup>2</sup> )						
	項目 15	せん断剛性	0.6 $Q_{nc}$ 時又は 0.6 $Q_{tu}$ 時における水平変位量が 5mm 以下又は 0.3 $d$ ( $d$ : アンカー筋の呼び名) 以下であることに対して、95%以上の信頼性を持って満足している。						

[注] 項目1~15は、評価認証審査項目を示す。